

国際スヌーズレン協会日本支部 全日本スヌーズレン研究会会報 第6号

International Snoezelen Association Japan (ISNA-JP)

All Japan Snoezelen Society bulletin No. 6

発行日 2014年6月 18日
国際スヌーズレン協会 日本支部
全日本スヌーズレン研究会事務局
〒420-091 静岡県静岡市葵区瀬名
1-22-1
常葉大学教育学部 柳本研究室内
E-mail: y-yuji@tokoha-u.ac.jp
p

巻頭言 | スヌーズレン研究のさらなる発達を願って

このたび本研究会会長に就任するにあたり、あいさつとお願いを申し上げたいと存じます。

本年2月末に元会長姉崎弘氏からの会長辞任の予期せぬ報告に驚き、筑波大学以来の旧知の間柄である彼の要請で本会顧問を引き受けた私もいずれ辞退しなくてはと考えていました。その時に理事会から図らずも会長就任の話があり、一瞬戸惑いはありましたが、姉崎氏が情熱を注ぎ育ててきたスヌーズレン研究会を絶やしてはならないという思いと、彼の復活まで少しでも役立つことが自己の使命と感じて、微力ながらも引き受けることにいたしました。

私とスヌーズレンとの出会いは、姉崎氏の研究発表を通じてのものに限られ、重度・重複障害児の感覚教育の一つくらいの認識しかありませんでした。

特殊教育学研究第51巻4号に掲載された論文『わが国におけるスヌーズレン教育の導入の意義と展開』の中で、姉崎氏がスヌーズレン教育の概念を定義され、その体系化を目指す趣旨を明確に述べています。私も障害児教育を専門にしてきた立場からその趣旨に共鳴しながら読ませていただきました。

しかしながら、スヌーズレンは知的障害者施設のレクリエーションとして創始され、その後治療(セラピー)を目的とした活動や研究が行われ、そして重度の障害児の自立活動指導にとどまらず、発達障害児や、さらにメンタル・ケアの必要な子どもにまで適用されるなど、目的や対象が大きく広がっているこ

新会長 柳本 雄次

(Yanagimoto Yuji)

国際スヌーズレン協会日本支部
全日本スヌーズレン研究会 会長
常葉大学 教育学部 教授
筑波大学名誉教授



とを知りました。昨年の研究会総会に出席した折に、会員が特別支援教育関係者ばかりでなく、多様な職域に及んでいる実情に改めてスヌーズレンのもつ奥深さに触れた気がします。

その時にマーテンス博士の講演を拝聴しながら、科学的な立証に裏付けられた理論と実践研究の必要性を痛切に感じたいです。外国におけるスヌーズレンに関する新しい研究の知見や実践の報告等の情報の入手とともに、わが国におけるスヌーズレン研究を早急にかつ確実に進めていくことが、本研究会がいま取り組むべき課題だと考えます。この課題の達成に幾らかでも寄与するよう努める所存ですが、会員の皆様にはよろしくご支援とご協力をお願い申し上げて、就任の挨拶に代えさせていただきます

ISNAプロフェッショナル資格認定セミナー (2014年春期) 修了のお知らせ

去る4月26日～5月1日の6日間、昨年からの引き続きで、ISNAプロフェッショナル資格認定セミナーが、三重県津市の障害者支援施設「聖マツヤ心豊苑」で開催されました。昨年に引き続き、今回はmodule3,4を修了することができました。詳しくは、機関誌「スヌーズレン研究」第2号をご覧ください。

認知症患者・家族・介助者のためのスヌーズレン

近年社会問題となりつつある認知症。今年の1月には、イギリスにて第1回の認知症世界サミットが開催されるなど世界的にも問題となっています。高齢化社会、アジア圏よりも先に高齢化社会を迎えているヨーロッパ圏からの動きは、これから急速な高齢化社会を迎えるアジア圏にとって学ぶところが多くあります。

日本では、現在85歳以上の4人に1人が認知症と診断されていますが、予備軍を合わせると65歳以上2人に1人とされています。認知症は、いろいろな原因

で脳の細胞が壊れてしまったり、働きが悪くなったために様々な障害が起こったり、生活する上での支障が出てきますが、初期の段階での周りの理解と手助けがあれば、進行をかなり遅らせることができると感じます。

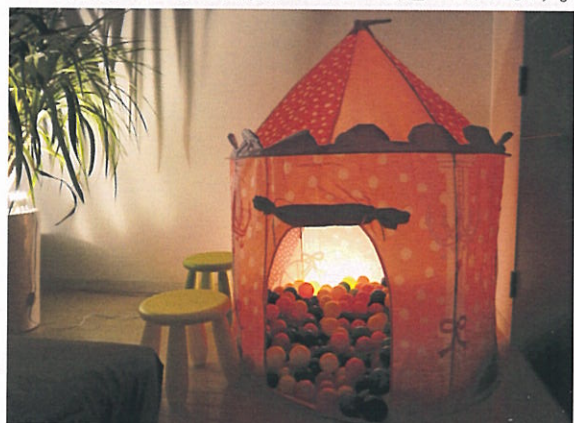
スヌーズレンの中で言われている、大脳辺縁系の構造（感情・本能・網様体・自律知覚を行う構造）、五感（味覚・嗅覚・聴覚・視覚・触覚）、年を重ねると段々と耳が聞こえづらくなり、目も見えづらくなり、匂いも段々と感じなくなり、味も何も食べても美味しくなくなると言ったりします。最後まで残るのが体感（触覚）で、痛みも感じるし、やさしく擦ってもらうのも感じます。よく話をしたり、散歩に行くときは、手をつないだり、不安な表情の時には肩を抱いたり、背中を擦ったりするだけで落ち着くのを感ずると、この大脳辺縁系（海馬を含む）が、人としての人格や人間性を司り、大切な記憶も司る場所を強く感じます。その場所を少しずつでも刺激し、衰えを遅らせることで、認知症患者の尊厳を守り、最後まで五感を楽しみ感じることができれば、人間らしく暮らしていけるのではと実感し、実践をしています。

スヌーズレンの基本でもある、介護者、介助者・環境設定ができてこそ、より良い効果が期待できることをマーテンス博士のセミナー後は強く感じています。

スヌーズレンを学び、自分自身一番感じたことは、自分自身を介護者・介助者・環境設定の中に身を置き、相手を理解することで自分自身をより理解でき、自分自身が変わったことで、介護者が介助者を理解し、より効果が増したと感じています。

認知症は、誰か一人が理解をしても24時間その人に付き添っていることは、たとえ家族であっても不可能なことなので、一人でもスヌーズレンの理論と実践を学び、広めることで、いろいろな分野での助けになるのではと感じます。

日本では、認知症の患者へのスヌーズレンの活用の実績もなく、手探りでスヌーズレンの実践をしていますが、良い結果や効果を上げて、認知症患者や家族・介助者が楽しく介護ができる環境にしたいと思っています。



市川さんが考えた、認知症患者・家族・介助者のためのホームメイド・スヌーズレン

ホームページ：<http://www.attara.jp/>

理事 市川 仁美

(Ichikawa Hitomi)

国際スヌーズレン協会日本支部

全日本スヌーズレン研究会 理事

(株) あったらかいご 代表



代表 市川仁美

— 会 員 紹 介 — (株) Relx' Creation project 社長 橋本 敦子さん

今回紹介させていただきます会員は、(株) Relx' Creation project 社長の橋本敦子さんです。

橋本さんは、チャイルドカウンセラーや子どものいじめ相談員として活動され、多方面から子どもに関わるうちに、乳幼児期の親子関係や安定した情緒形成を育むことの重要性を実感し、その改善方法を探る中で「スヌーズレン」と出会い、「子どもたちが過ごす施設に広めたい」と強く思うようになり、自らも海外にも行かれ、各国のスヌーズレンセンターも廻られたそうです。

今現在は、ご主人の拓也さんと会社を設立し、スヌーズレンの体験や講演等で普及活動を行っております。精力的でとても素敵なお夫妻でした。

(取材： 広報部 荒木義雄)



Relax'Creation project



Q1、スヌーズレンに出会ったきっかけを教えてください。

これまで、TVやWEBサイトにおける知育教材や学習教材の制作という形で子どもたちと関わってきました。いじめや不登校、発達障害児の存在等、学校現場における様々な課題が浮き彫りになっている中、子どもたちの精神的ケアのサポートは圧倒的に欠けていると感じていました。自分が提供してきた“クリエイティブ”と、これから提供したい“癒し”をキーワードとして様々な本を読んでいたところ、図書館で河本佳子さん著書の「スウェーデンのスヌーズレン」が、ふと、目に留まり、「こんなものがあつたのか!」と、衝撃を受けました。

Q2、あなたが思うスヌーズレンの魅力は何ですか。

対象者とケアする人が、共に同じ世界に溶け込むような気分を味わえるところです。

また、私は「子ども」「アート」「癒し」という3つの観点から興味を持ち始めましたが、同じ志を持つ他分野の人が関わることにより、どんどん発展していく要素があるところも魅力の1つです。今後も、「対象者が幸せであること」という1つの目標に向けて、様々な専門家が関わり、発展することを願っています。

Q3、スヌーズレンを体験されたお客様の反応はいかがでしたか？

私たちは障害の有無に関係なく、いろいろなお子さんにスヌーズレンを体験してもらっています。お子さんの反応は本当に様々ですが、特に印象に残っているお子さんが2人います。

1人は、4歳くらいの女の子で、スヌーズレンルームに入る前後は無表情で固い様子だったのですが、スヌーズレンルームの中では、こぼれんばかりの笑顔だったことです。その子のお母様はシングルマザーだったのですが、仕事であまり子どもの相手をする時間がないとおっしゃっていたので、お子さんと一緒にゆったりとした時間を持つことができ、とても嬉しそうでした。

もう1人は、震災の後に訪れた、仮設住宅地でのスヌーズレン体験車で出会った10歳くらいの女の子です。大人びた様子のその子は、おそらく震災で家族を失ったようで、はじめは口を利こうとしませんが、車の中ではポツリポツリと話をし始めました。

その子がスヌーズレン車で言った「大人は建物を建てることしか考えてないよ」という言葉は、大人たちに対する子どもたちのメッセージが凝縮されているように思えました。

固くなった子どもの心が柔らかくなっていくのを実感し、スヌーズレンが多くの子どもたちに届いてほしいと強く思った体験でした。

Q4、貴方様の施設、会社、サロン等の理念や活動など、ご紹介ください。

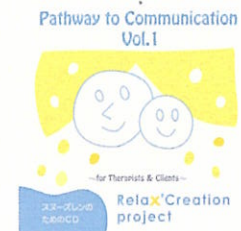
3月より、調布市国領駅徒歩2分の場所に小さな常設のスヌーズレンルームをOPENしています。コワーキング・スペースという、ワーキングマザーのためのスペースの1室で、基本的には2歳時以下とのお母様が対象です。当てはまらない方でもお問い合わせいただければ、見学や体験が可能です。

また、オランダのWorldWideSnoezelenでのレクチャーをもとにしたスヌーズレンに関する講座等も開催しています。

また、4月にスヌーズレンルームの中で使用することを目的としたCDを発売しました。

子どものためのファンタジーというテーマで作曲していますが、乳児からお年寄りまで幅広くお楽しみいただけるように作ってあります。セラピー等の時間に応じてトラックを組み合わせてお使いいただけるのも特長です。

大手CDショップやAmazonにてご購入いただけます。→CDジャケット詳しくは、<http://relaxcreation.co.jp>をご覧ください。



Q5、今後の展望やスヌーズレンに期待したい事があればご記入ください。

現在、スヌーズレンの活用は主に障害児者への活用にとどまっているので、もっと広く普及してほしいと思っています。当プロジェクトとしては、行政や他機関と連携し、一般保育園や小学校における支援を必要としながらもケアが行き届いていないグレーゾーンの子どもたちや被虐待児についても提供できるような仕組みづくりに取り組んでいます。

Q6、当研究会に期待、及び要望などございましたらご記入ください。

海外の事例紹介や実践者の話がもっと聞けたら嬉しいです。

また、様々なバックグラウンドの方が参加されていると思うので、新たな可能性が生まれるよう、会員同士の交流の場があっても面白いのではないかと思います。

◆◆お知らせ版◆◆

●平成26年度会費納入のお願い●

遅ればせながら・・・同封の郵便払込用紙にて、今年度の会費納入をお願いいたします。会費は：個人会員3,500円です。今年度もユニークな企画を考えております。よろしくお願ひいたします。定期総会2014 当日も会費を受け付けております。新規会員も大募集中です！スヌーズレンについてみんなで考えていきましょう！

★国際スヌーズレン協会日本支部 (ISNA-JP) 全日本スヌーズレン研究会★

スヌーズレン研究会2014 (第1回) & 2014 定期総会のご案内

日時：平成26年(2014)年7月6日(日)
10:00~12:00

○研究会 前半1時間30分
○総会 後半30分間を予定

場所：三重県教育文化会館 中会議室

住所：三重県津市桜橋2-142

参加費：会員無料

(非会員1,000円)

研究会テーマ：「スヌーズレンの今！」

コーディネーター：

柳本 雄次 (常葉大学教育学部教授、
筑波大学名誉教授)

話題提供：

大崎 博史 (国立特別支援教育総合研究所
主任研究員)

西村 知哉 (聖マッセヤ心豊苑 理学療法士)

市川 仁美 (あたらかいご代表)

<編集後記>なんか、会報第6号、発行できて良かったあ〜。ホッと一安心！ 今年も、↑↑でいこうね！ By- おーちゃき